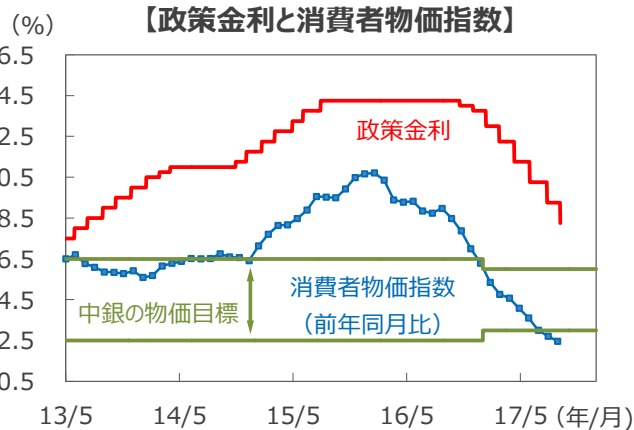


今日のトピック ブラジルの金融政策 (2017年9月)

1.00%利下げ、今後は利下げペース減速を示唆

ポイント1 政策金利を1.00%引き下げ 8会合連続の利下げ

■ ブラジル中央銀行 (以下、中銀) は、9月6日の金融政策委員会で、政策金利を1.00%引き下げて、8.25%とすることを全会一致で決定しました。前回中銀が示唆していた1.00%の利下げは市場予想 (ブルームバーグ集計) の通りでした。利下げは8会合連続で、昨年10月以降の利下げ幅は累計で6.00%となりました。

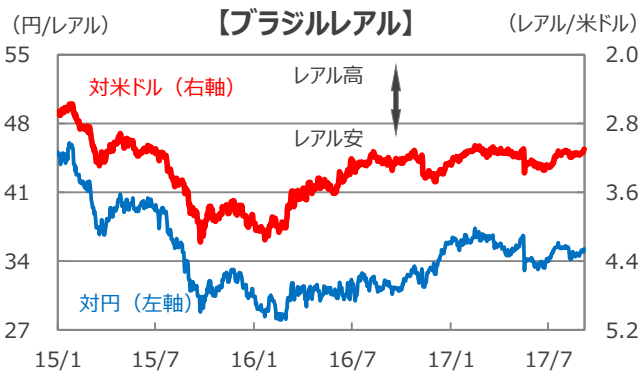


(注) 政策金利は2013年5月1日～2017年9月6日。消費者物価指数は2013年5月～2017年8月。中銀の物価目標は年率+4.5%で、レンジは2016年末までは±2%、2017年は±1.5%。

(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 利下げペース減速を示唆 インフレは低下傾向が続く

- 8月の消費者物価は前年同月比で+2.46%と一段と鈍化し、インフレの低下傾向が続いています。
- 中銀は声明文で、最近の物価動向は好ましいと評価し、低迷している経済状況の下支えのため、構造的な中立金利を下回る水準に政策金利をとどめていと説明しました。
- また、中銀は、次回の会合について、基本シナリオ通りであれば、利下げのペースを落とすことが適切だと述べました。同時に、金融緩和サイクルが徐々に終了していく見通しを指摘しました。次回は0.75%の利下げが見込まれます。



(注1) データは2015年1月1日～2017年9月6日。

(注2) (レアル/米ドル) は逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 レアルは底堅い動き

■ 中銀の追加利下げを受けブラジル株式市場が上昇するなか、通貨レアルは6日、対ドルで約4カ月ぶりの高値水準をつけました。今年5月にテメル大統領の汚職隠ぺい疑惑が浮上し、政治の混乱や財政改革の遅れを嫌気して調整しましたが、その後テメル大統領の辞任・弾劾の可能性が後退し、レアルは買い戻されています。中銀の利下げや構造改革期待からブラジル株式市場が堅調なことや、早期の米利上げ観測が後退していることなどから、レアルは当面底堅い動きとなりそうです。

ここもチェック! 2017年7月27日 米国の金融政策 (2017年7月) 2017年7月27日 ブラジルの金融政策 (2017年7月)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。